

2021年度 海の星カトリック幼稚園 学校関係者評価

I. 学校関係者評価委員の評価

2月、「まん延防止等重点措置」が適応されたため対面による学校評価委員会を中止。2月5日行事のあと顔合わせをし、教職員の自己評価も参考にして記入された書面による評価を提出願った。幼稚園の様子は運動会、親子ふれあい活動、クリスマス聖劇などに評価委員に来ていただき、またブログや毎月のニュースレターで、日常の保育の様子を知らせた。

委員は5名（I氏教会司祭 S氏園児保護者 F氏地域住民 Y氏教会信徒 D氏講師）。各項目の評価とコメントの要約はこの順で掲載する。

【評価A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった】

全体評価：

- 【A】 子どもたちの益となるように、コロナ禍でも全ての行事を違った方法で行った。子どもたちはやり方が変わったことにも気づかないほど、幼稚園の自分の生活を楽しんでいたと思う。
- 【A】 コロナ禍で制約があるなか、子どもたちや保護者の思いに寄り添い、より充実した行事や教育活動を行うために、様々な工夫をされた。
- 【A】 ストレスと不自由や制約のある中、先生方が精一杯子どもたちの成長を考え保護者の方とのコミュニケーションに努めている点を強く評価します。
- 【B】 保育者と園児たちの信頼関係が伺えます。より楽しく過ごせるように工夫して取り組まれていて、いつも笑い声の絶えない雰囲気明るく活気づいた園になっていると思います。
- 【A】 子どもたちが持つ純粋さと柔軟性によって、子どもたちが本性として持つ「成長する力」に大きな希望を感じます。

本年度の評価目標の評価：

① 自分の思いを伝え、相手の考えを尊重して折り合いをつけようとする。

評価 【 A A A B A 】

コメント 子どもたちがいつでも、何をして過ごすかを選ぶ力を育み、コミュニケーションがとれるように、保育者は発達段階に応じたサポートを行っている。

② ささまざまな英語の表現を聞き、英語で伝える楽しさを味わう。

評価 【 A A A B A 】

コメント 様々な場面で子どもたちは自然に自発的に英語を使って楽しんでいる。次第に自信をもって発言するようになっていく。国際社会の一員であることも分かるようになる。

③ 皆で楽しむ食事に、意欲的に取り組もうとする。

評価 【 A A A B A 】

コメント 苦手なものがあっても食べられるように、工夫をしながら保育者が援助している。保護者の協力も必要である。

④ 読み聞かせを楽しみ、自由な発想や思いを共有しようとする。

評価 【 A A A A A 】

コメント どのクラスも絵本大好きに育っているのは、継続の結果であると思われる。

⑤ 子どもの思いや成長をできるだけ頻繁に伝え、保護者の気持ちを受けとめ、共感する。

評価 【 A A A B A 】

コメント コロナ禍であってもできるだけ保護者との会話に努め、保護者に共感しようとしている。遠慮なく伝え合うことで、相互の信頼関係が深まり保護者も安心するであろう。

II. 自己評価 12月21日 職員研修にて自己評価したものを持ち寄って発表し合った。

1. 本年度の目標を振り返って

互いの発想や発言を聞き合い、協同的に遊びこむ楽しさを体験させる。

年長児

大勢で遊ぶのが好きで、戦いごっこや鬼ごっこで、面白くなかったり納得できなかつたりすると話し合っ
てルール決めなおし、もっと楽しくするにはどうすればよいかを考える姿がよく見られる。自分の思いを強く伝えら
れる子と伝えられずに泣く子も出てくるが、皆が「楽しかった！」と思えるように皆でなんとか続けようとする。
違う意見を言う子がいるとその子も満足できるアイデアを新たに出す姿がある。「ちょっとまって。きいて！」
と、その場を離れそうな子を引き留めて話し合い、その遊びに皆で一緒に遊びに集中しようとしている。

年中児

「遊びこむ」のは難しいし、そのように指導するのも難しい。遊びは常に発展し、変化していく。遊びが上手
くいかなくなると、「じゃ、～してみたら？」とアイデアを出す子がいるところに成長がみられる。同じ絵本や
おもちゃが使いたい時も話し合いができるようになってきた。言いたいことを伝えることは上達しているが、相
手の話を聴くことはまだ十分ではない。

年少児

年度当初のひとり遊びから2,3人で遊ぶように変化している。はっきり意見を言える子と消極的な子に分か
れていたのが、保育者が援助して自分の意見を言えるようになってきた。男の子を中心に砂遊び「工事中」や「チ
ョコレートづくり」の流れを理解して遊ぶが、他の子が加わるのを受け入れられない子もいる。女の子の中にも
特定の友だちだけと遊ぼうとする子どもが見られる。自由遊びを楽しみにして、「ケーキ作り」の続きを「午後
にもできるか」「明日もする」と保育者に伝えるほど、遊びこんでいる。また、年長児の遊びの中に入れてもら
って、自分の思いつかないような遊びかたを知ることを楽しみにしている。

満三歳児

保育者の仲介によって、自分の意見や思いをはっきり言えるようになってきた。
(おままごと・おみせやさんごっこの例が発表された。)

また、年齢の枠を超えて遊び込んでいる砂遊びの例が報告された。

2. 本年度の評価項目についての自己評価 (各教諭の自己評価【A～E段階】を順に列挙、コメントのまとめ)

① 自分の思いを伝え、相手の考えを尊重して折り合いをつけようとする。

【 C C B C A 】

年少児の「貸して。」「いいよ。」というやり取りから始まり、消極的な子が上手く伝えられずに泣いて保育者
に頼るようになり、年中児では意見が違うときにはじゃんけんで決めようとするようになり、年長児で
は、友だちも楽しく遊べる方法を考える姿が見える。より遊び込めるように保育者は援助している。

② さまざまな英語の表現を聞き、英語で伝える楽しさを味わう。

【 B B A C A 】

より多くの場面で英語を自然に使う姿が見られる。上級生の使う英語を聞いて、教えられたわけでもないのに年少児も” May I go out?” などの表現を的確に使えるようになっている。

③ 皆で楽しむ食事に、意欲的に取り組もうとする。

【 C C B C B 】

偏食や時間がかかりすぎる子の指導に手がかかるので、時間を決めたり、食後の遊びを楽しみにしたりと動機付けをしている。楽しんで食べることを目標に、家庭との連携を意識していきたい。

④ 読み聞かせを楽しみ、自由な発想や思いを共有しようとする。

【 A B B B C 】

どの学年も読み聞かせが大好きで、毎日の読み聞かせを楽しみにしている。自分が思った事、気づいた事をそれぞれが発言していつそう楽しい時間になっている。

⑤ 子どもの思いや成長をできるだけ頻繁に伝え、保護者の気持ちを受けとめ、共感する。

【 B D C B C 】

お便り帳に子どもの心配ごとや、保護者の不安や相談が書かれていると連携して対処を考えることができるし、話し合うことで互いの信頼が増す。コロナ禍、行事の分散でなかなかゆっくり雑談する機会が持てないができるだけ会話を交わし、保護者に共感できるように、保育者は心がけている。

以上